

「学生の学習を促すレポート論題の作り方」

【座談会の中で出された話題と意見】

	話題	登壇者や参加者からのご意見
1	レポート論題を考える際に気を付けている点がありますか？	（西村先生）ネット等書いてある情報を回答しても意味がない論題にするよう心掛けています。学問の性格上もあるが、率直に、自分で感じ取り、考えたことを書いてほしいと思っている。それぞれが問いを持って、疑いを持って考えることを大切にしている。
2	manaba＋Rの掲示板にご用意されている期末レポートのスレッドについて、スレッドが活発になるよう、何か工夫をされていたら、お教えください。	（田中先生）学生から教員に対しての質問を受け付けるという形で活用している。どういう形で調べて、どうレポートを書こうとしているか、学生からの質問にアドバイスをする。他の学生はそのやりとりを見て学んでもらう。質問が出たら、できるだけ早く、広く答えるようにしている。
3	レポートを採点する際に気を付けていることや、工夫されていることがありましたら、教えてください。	（田中先生）剽窃しにくい論題にしていることもあり、剽窃チェックツールは利用していない。ネット上にある情報を書き写しただけのレポートもあるが、オリジナリティがあるレポートを高評価としている。手間がかかる作業だが、学生にこたえるため、頑張っている。 （西村先生）授業で学んでほしいこと、考えてほしいことをどれだけ理解できたか、を基礎点として、学生自身が問題意識をもって、自らの考えを表現できているかで点数を付けている。
4	期末レポートに向けて、日々の授業設計をしっかりと行っているとのことですが、先生の期待する学習成果が得られているとご実感はありますか？学生の様子や、結果を教えてください。	（西村先生）期待する学習成果が得られている。学生は、実際に体験すると、感覚や思考が活性化、刺激され、それぞれが自分で考えてくれるようになる。学生間で学習成果に幅があることも否めないが、こちらの期待以上の結果を出す学生もいる。 （田中先生）毎授業後に課しているミニレポートを読むと、学生の学習過程がわかる。それを踏まえて期末レポートを見ると、学生の成長や努力が成績にも反映されているように思う。 （中島先生）授業に出て考えることで、質の高いレポートが書けるまでに成長できるのは素晴らしい。期末レポートの論題を工夫するだけでなく、複雑で高次の論題だからこそ、授業内で学生が考えたり、問いを深めたりする機会を随時用意していることが、優れたレポートへ繋がると、今回のお話から伺える。

「学生の学習を促すレポート論題の作り方」【座談会の中で出された話題と意見】

	話題	登壇者や参加者からのご意見
5	レポート論題を考えるにあたり、新任教員へのアドバイスはありますか？	（田中先生）ご自身の専門分野に関して、学生に、どういう風に勉強すべきか、ちゃんと示された方がいい。学生に対して、論の組み立て方などごく基本的な手順を伝えれば、学生はどうやるべきかイメージできる。積み上げの方法そのものの例を紹介するのが、一番良いと思う。 （西村先生）以前は、自分で問いを立てて、調べて自分で答えなさい、とあえて丸投げみたいなレポート出してたこともあるが、学部レベルだと、できる生徒とできない生徒の差が広がる懸念がある。レポート論題も細かく割って、段階を踏み、まず押さえるところは押さえて、そこから自分の頭で考え、レポートに取り組む。そうなるように気をつけてる。レポートを書くことを通じて、学生が学んでくれるというのを大切にしたい。 （中島先生）授業内で段階的に論題を出すというやり方をされている教員は多い。大きな論題を1つ出すだけでは、学生間で成果の差が出やすくなってしまう。学士課程の1-2回生に対しては、教員が導きながらレポートを書かせるのが良いだろう。